

アシストコンサルティング / 江尻幸雄からの『2分で読切りニュースレター』

このニュースレターは名刺を交換させて頂いた方へお送りしています。不要な場合は空メールを返信頂ければ次回より停止いたします。この記事が皆様のお役にできれば幸いです。

今回のテーマは、、、『本を知識に転換するために』です

最近肌寒い日が多く秋の気配が強くなってきました。秋と言えば食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、など楽しいことが一杯ですが皆様はいかがでしょう。今回は“読書=書籍(本)”についてのレターです。

●図書館の本のこんな あるある？

私は神戸市の中央図書館を良く利用しており、月に数冊の本をお借りします。図書館の本は公共物で当然、読み回されるわけですから丁寧な扱いが必要なのですが、時にはページを折ったり、マーカーで線を入れたり、メモ書き、難しい漢字の読み仮名まで丁寧に書き込んだりされた本と出会います。これ自体は読むのに障害となる程度ではないのですが、時に困ったこともあります。

ある時、推理小説を読んでいて、中盤に差し掛かりこれから後半へとワクワク読み進んでいると、途中でメモ書きを見つけました。犯人のネタばらしです。。

このような“いたずら”は当然いけないのですが、いたずら者の”したり顔”が浮かんできそうなので、そのまま見なかったようにスルーします。

●本を通じて学ぶことはあるか？

本から学ぶことは多いです、逆に本を通じて自分の考え方や行動原則の在り方を再確認できることがあります。本を読んでいて「いいこと書いているな」と思うことがあります。ひとつ知ることができてうれしくなります。そこで今回はイソップ寓話の本の中からひとつ紹介したいと思います。

イソップ寓話は子供向けと言うイメージを持つことが多いのですが、多くの示唆に富む話があります。有名なものでは「アリとキリギリス」や「北風と太陽」があります。今回紹介するのはそれ程有名な寓話ではありませんが現代のビジネスにも通じる「3人のレンガ職人」です。紙面の関係で話しがかなり省略になっていますがご容赦を。

旅人が歩いていると教会の壁を作っているレンガ職人が三人。何をしているのかと尋ねると一人目は難しそうな顔をして「毎日毎日ただレンガを積んでいるだけだ」。二人目は一生懸命に作業をしながら「大きな壁を作っている。これで家族を養っている」。そして三人目は目を輝かしながら「俺たちは歴史に残る偉大な大聖堂をつくっているんだ」。旅人は一人目には慰め、二人目には励まし、そして三人目にはお礼を述べて去って行きました。

●目的と目標は見えているか？

この話ってどこかで似た話を聞いた覚えがありませんか？現代の身近な世界でもあることですよ。数百年前から同じところを人は行きつ戻りつしているようです。ただ違うのは現代の私達には選択肢が多いということ。

個人のレベルで捉えると、目標と目的の意義、そしてモチベーション、さらに周りへの影響についての教えとなる話です。組織(企業)には様々なモチベーションレベルの人がいて、それを引き上げてくれたり、引き下げてくれたりする人もいます。些細なことで人の心は揺れ動くのも真実です。

全ての部下(社員)を明日に三人目のレンガ職人のように育てることはできませんが、意識し継続して取り組むことで人財育成と企業活性化はセットで実現できます。

さて今号の最後に。テーマ「本を知識に転換するために」の趣旨ですが、イソップ寓話やノウハウ本は素晴らしいのですが、読んだだけでは「物知り(博学)」になっただけ。成果に結びつけた状態を「知識」への転換と呼ぶなら、その転換には何が必要？ 弊社サポートの分野であります。最後までお読み頂きありがとうございます。